

## 令和6年度「広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業」 成果報告書

広島市立大学  
芸術学部 准教授 青木 伸介

### 【研究テーマ】

大竹手すき和紙の伝統技術の継承と活用

### 【連携した企業・団体等】

おおたけ手すき和紙保存会

### 【参加学生】

芸術学部デザイン工芸学科 3年 4名

芸術学研究科造形芸術専攻造形計画研究 前期 1年 1名

芸術学研究科造形芸術専攻造形計画研究 後期 1年 1名

芸術学研究科造形芸術専攻造形計画研究 後期 3年 1名

### 【活動の内容】

この度の支援事業を受け、大学の地域展開型芸術プロジェクトの取り組みとなる大竹手すき和紙プロジェクトを、令和6年6月から翌年の令和7年2月までの9ヶ月間に渡って、芸術学部の学生7名を対象に継承活動を実施した。このプロジェクトのテーマとなる「大竹手すき和紙の伝統技術継承と活用」において、大竹市防鹿のおおたけ手すき和紙の里を活動拠点とするおおたけ手すき和紙保存会と連携し、和紙の原料となるコウゾの栽培を始め、コウゾの加工、加工後の紙料を使った和紙の製作（溜め漉き、流し漉き）まで一連の伝統技術を、保存会の指導のもと実習形式で取り組んだ。このプログラムの対象は同じく上記の学生7名であるが、数名は昨年度から継続して参加している。

まずは活動内容について、以下に日時を付し箇条書きで報告する。

#### ① コウゾ苗木植えつけ実習

6月2日（日）おおたけ手すき和紙の里からほど近い場所にある、廃校となった旧穂仁原小学校の跡地を保存会が新たに耕作した畑に、コウゾ苗木の植えつけを行った。学生3名教員1名が参加して、保存会員の指導のもとで、畑に作られた畝に60cmほどに成長した苗を等間隔に植えつけた。あわせてミツマタの苗木も3本植えた。



植えつけの方法の指導



畝に苗を植えつける学生

## ② コウゾの芽かき実習

7月7日（日）保存会が管理している畑のコウゾの枝から生える脇芽を取る芽かき作業を行った。畑は小瀬川の川沿いの土地を開墾した場所など数カ所にある。芽かきを行わないと真っ直ぐ育たず良質なコウゾ皮が得られないため、手を抜けない重要な作業である。午前中に保存会員とボランティアと共に手早く行った。午後は昨年度に収穫し保存していた白楮を漂白する実習を行った。



芽かきの指導



畑の芽かきをする学生



楮皮の漂白

## ③ 白楮の釜煮と水晒し・溜め漉き実習

8月22日（木）一晩水槽に浸けおいた白楮を大釜で一気に煮て柔らかくする釜煮と、目的の状態まで煮終えた白楮を水槽でアク抜きする水晒しを行った。煮具合によって繊維の強度が変わるため、和紙の良し悪しを決める最も重要な工程である。数分単位で調整を行いながら状態を見極める難しさを学んだ。午後には小型漉き舟を使用した溜め漉きを行った。コウゾの皮が入った B3 サイズほどの下張り用和紙を制作した。



大釜で白楮を煮る



引きちぎり煮具合を確かめる



溜め漉き実習

## ④ 手描き鯉のぼり制作工房調査

9月27日（金）大竹市で長年作り続けられてきた手描き鯉のぼりの工房（大竹和紙工房）に調査のため訪問した。現在は広島市に在住の杉本氏が制作方法を受け継ぎ、保存会が作る鯉紙を使い一つ一つ手作りしている。氏に手解きを受けながら、学生も専用の刷毛を使って鯉の顔や鱗を下書きなく描いた。その後、50cm ほどの和紙のオリジナル鯉のぼりを制作した。当日は、中国新聞の取材が入り、朝刊にその様子が掲載された。



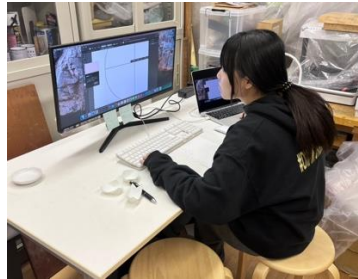
杉本氏の実演 工程を丁寧に解説



鯉のぼりに筆を入れる学生

## ⑤ 成果作品プラン会議

11月21日（木）和紙の里を活動拠点に、保存会の取り組みや和紙づくりの現状、その和紙の活用例を踏まえ、成果作品制作のプランを話し合った。大竹手すき和紙の課題として、若い層にアピールすることが必要であるという意見があった。和紙と自分達の日常を結びつける作品を制作する企画の提案がなされた。



テーマをもとに制作を始める学生

## ⑥ 流し漉き和紙の制作実習

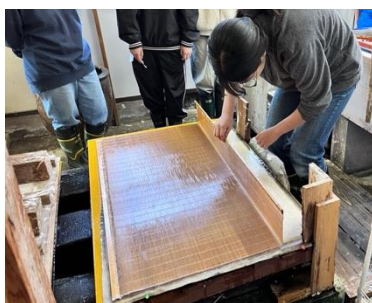
11月22日（金）おおたけ手すき和紙の里の工房で、大型漉き舟を使った流し漉き実習を行なった。通常の大竹和紙で扱われている大きさ（100×62cm）を漉く舟で、コウゾ紙料とトロアオイの糊を水に溶かし紙液を仕込む。今回は障子紙の厚みを目標に交代しながら流し漉きを行なった。その後、脱水済みの和紙を一枚一枚ヒーターで乾燥させる板干しを行なった。



漉き方を教わる学生



大舟で流し漉く学生

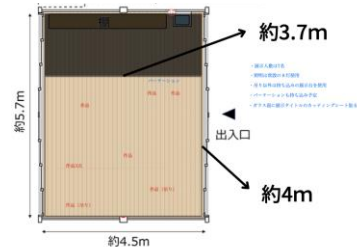


# ⑦ プロジェクト成果作品展打ち合わせ

12月12日(木) 前回の企画会議後の作品制作進行状況の報告と、成果作品の発表を行う展覧会についての打ち合わせを行った。会場については、大竹市内で行った前回の結果を踏まえ、より人通りの多い場所での開催を検討した。その結果、西広島駅前の KOI PLACE 内にあるイベントスペースを借用することに決定した。また、広報物の制作については、芸術学部の見覚造形分野の学生にデザインを依頼することになった。



西広島駅前 KOI PLACE



展示のレイアウトを作成

# ⑧ コウゾの刈り取り実習

12月7日(土) 保存会が管理する畑に植栽されたコウゾの刈り取りを行なった。11月に入りコウゾの葉が落ちると刈り取りが始まる。この時期から3月まで続く作業となる。今回は保存会の2回目の刈り取りに参加した。保存会員と学生など合わせて約20人が各畑を順に廻りながら刈り取り、5時間ほどかけて約500kgのコウゾを収穫した。長時間の作業ではあるが、昼食や会話などをする交流の時間でもある。作業を通して、その地域社会の繋がりを感じる機会となった。



根本から手鋸を使って刈り取る



1日で収穫したコウゾ

### ⑨ コウゾの釜蒸・皮ハギ実習

12月14日（土）先週7日に刈り取ったコウゾを大釜で蒸し皮をはぎ取る作業を行った。大釜に合わせて120cm程に切り揃えられたコウゾを1回で150kg蒸し、熱いうちに一気に皮ハギを行う。そのため、近隣住民も手伝い大人数で作業することが慣例となっている。学生は手慣れた方に教えを受けながら皮ハギを行った。午前1回、午後2回で合計500kg近い量を仕上げる。この際に芽かきが不十分であると作業しづらく歩留まりが悪くなる。手間をかける重要さを感じることができる。



大人数で大量のコウゾを処理する



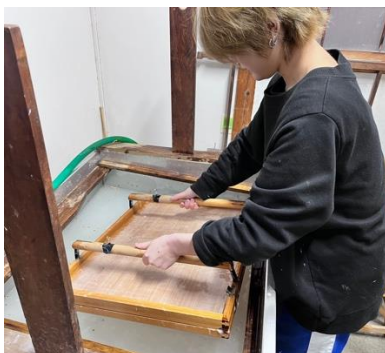
蒸し上がったコウゾの皮を剥く学生



剥き終えた黒皮は束ねて水につけ置く

### ⑩ オリジナル和紙の試作①

1月30日（木）これまでの実習をもとに、和紙に他素材などを漉き入れるオリジナル和紙の試作を行った。和紙の里の近隣を流れる小瀬川の周辺を探索し、素材となる植物の種を採取した。その中から百合の種を選び漉き込み和紙を制作した。舟に仕込んだ紙液に混合したものと、溜め漉いた上に粒置きしたものと試作を行った。乾燥後の和紙は想像以上の仕上がりとなり、今後も制作を継続すること保存会とも検討中である。



百合の種を入れた紙液を漉く学生



和紙に漉き込まれた種

## ⑪ オリジナル和紙の試作②

2月11日（火）同じく漉き込み和紙の試作を行った。今回は、植物や魚などの模様に合わせてレーザー加工機でカットした和紙を漉き入れた。形が崩れないように一枚ごとにピンセットを使って配置した。こちらもさらに、各地方で作られた和紙を参考にしながら、今後も継続した制作を行う予定である。



溜め漉いた和紙にカットした和紙を置く



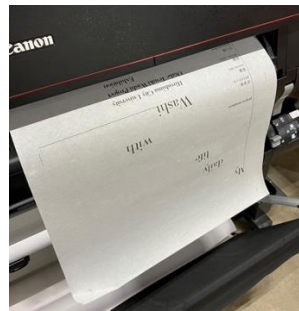
レーザーで焼けた縁が画像となる

## ⑫ 成果作品展準備

展覧会場の下見や広報物のデザイン決定と印刷、SNS等の告知を行った。広報物は、大判ハガキサイズの折加工を施したポストカードとし、大竹和紙に印刷したものをポスターとして制作した。



大判ポストカードのデザイン



鯉紙を使いポスターを出力

## ⑬ 成果作品展「和紙と私の日常」

2025年2月13日（木）から2月17日（月）に広島電鉄株式会社が運営する西広島駅前のKOI PLACE 内にあるコイハウスでプロジェクト参加学生7名による成果発表を行った。「和紙と私の日常」と題して、各々が和紙を使って制作した作品の展示をした。5日間と限られた期間ではあったが、保存会関係者をはじめ、初めて訪れた方など幅広い層の来場があった。2月13日の中国新聞朝刊に掲載され、それを見た方の来場も多くあった。



会場となったコイハウス外観



タイトルを入れたガラス窓



和紙に印刷したポスター



活動記録の掲示物



手に取って見ることのできる作品



和紙のぬいぐるみ



和紙のランプシェード



作品を手にする来場者



樹皮に和紙を漆で重ねた作品

#### ⑭ 報告会での成果発表

2月28日(金)に開催された2024年度いちだい地域共創プロジェクト市大生チャレンジ事業合同活動報告会にて、大竹手すき和紙プロジェクトポスター発表と参加学生によるプレゼンテーションを行った。



報告会のプログラム



報告用ポスター

既に数年続いている保存会との関係もあり、この度のプロジェクトについても、その意義を共有した密な連携が可能であった。主に現地の活動においての学生の指導と制作の補助に関わってもらったことで、改めて互いの課題を再確認する機会となった。このプロジェクトの教育活動を通して技術の継承と作品展を行うことは、保存会の目的である技術の保存と継承、及び魅力の普及と発信において大きな成果となっている。また参加した学生は、事業の支援を受けながら、その地域の伝統工芸を直に学び、その成果を発表する機会を得ることで、さらに多くの人に魅力を伝えることができる。特に今回は成果作品展として、人の往来の多い駅前のスペースを利用することで、普段このような活動に興味を持っていない幅広い層に向けて発信できたため、今までにない大きな効果があった。また、和紙の試作を通して、保存会の新たな取り組みに参加することも検討されており、この度の活動が次の実りにつながっている。